



サイの御教え

ヴェーダに関する御講話 ヴェーダを奨励しなさい

クリシュナ神はギターにおいて、主はアヴァターとなつて悪を懲らしめ、善を守る、と宣言しました。これは、アヴァターたちの目的は悪事を働く者を滅ぼすことであるという意味ではありません。悪というのは悪い思考のことです。悪い思考は誰の中にもあります。滅ぼさなければならぬのはそれからです。ダルマは神性そのものです。ヴェーダは、善い思考を伸ばすこと、邪悪な考えを排除すること、人類が善良な生活を送るのを助けることに努めています。ですから、ヴェーダを大切にし、奨励する必要があります。

もし人類がヴェーダやシャーストラ〔経典〕で禁じられていることをきちんと守るなら、人類は苦悩から解放されるでしょう。私たちの困難のほとんどは、ヴェーダを忘れてしまったために起こるのです。引力はずっと地

球に存在していました。とはいえ、科学者であったニュートンが実験をして、地球の重力を発見しました。地球はニュートンの発見以前から引力を有していました。それと同じように、ヴェーダの聖仙たちはヴェーダを基盤に霊的な実験をしました。聖仙たちが見出したことがバラタ〔インド〕で明らかになったからといって、ヴェーダはバラタ以外の場所では知られ得ないと言うことはできません。ヴェーダは全世界を網羅しており、どこにでも内在しています。単に重力に関する真理はニュートンをはじめとする外国人が発見したものだからという理由で、バラタ人が重力を否定することはできません。それと同様に、バラタ人がヴェーダの真理を発見したからという理由で、インド以外の人々がヴェーダの正当性を否定することはできません。

インドにおけるヴェーダへの敬意の減少

実際、他国の大勢の人がヴェーダを崇敬しています。マックスミュラー〔一八三三〜一九〇〇年〕は、ヴェーダの起源とヴェーダの内容を徹底的に学習し、それらに

関する學術書を書きました。彼はヴェーダの讃歌の意味を理解するために苦勞して学び、一生を學問に捧げました。マックスミュラーはモークシャムーラ〔解脱の基盤〕と呼ばれるようになりました。

インドの現状の悲劇は、バラタ人がヴェーダを外国人ほど高く評価していないことです。インドの極貧は、ヴェーダへの敬意の減少に伴って大きくなってきました。ヴェーダはインドの繁栄の源泉です。バラモン階級の人たちは、ヴェーダの衰退の責任を負わなければなりません。もし彼らが適切な方法でヴェーダを守ることが配慮していたら、この国が厄日の日々には陥ることはなかったでしょう。少なくとも今、バラモン階級の人たちは、目を見開いて、正しい線に沿ってヴェーダの學習を推進しようと努めるべきです。

サイの教育機関では、小学生から博士課程レベルの学生までヴェーダを学んでいます。学生たちは受けるに値する奨励を与えられています。他のほとんどの教育機関では学生が正道から外れることを許されているせいで、

この国は混乱と混沌に沈んでいるのです。人々は、言っていることやっていることが違うという傾向にあります。言動の不一致は、大衆がヴェーダを軽視している結果です。もし責任ある地位にいる人たちが自分の発言とおりの行動をしていないなら、どうして国民が彼らを信用することなどできるでしょう？

ヴェーダを普及させる時には

恐れずにいなさい

神の愛の化身たちよ！

どの人も、正しい方針に従ってヴェーダを奨励することを誓うべきです。この国の幸福と世界の繁栄はヴェーダにかかっています。あと十年か二十年のうちに、ヴェーダの知識を所有しているわずかな人たちがこの世からなくなります。ですから、ヴェーダの学習を普及させるための人材と奨励を提供するために、一致団結して対策を講じることが、緊急に要されているのです。

ヴェーダは生計を得る手段として用いるものではありません

ません。ヴェーダは神とのつながりを構築するための手段です。ヴェーダは大衆を楽しませるために用いるものではありません。ヴェーダを学んだ人たちは、ヴェーダを推進することに一生を捧げなければなりません。そうして初めて、その人たちはバラタの古代の伝承の栄光を復活させるために尽くすことになるのです。

現代では、ヴェーダに定められている儀式の一切が放棄されています。ほとんどの人々が意味のない迷信を実行しています。いったい何人の人がヴェーダの戒めを忠実に守っているでしょうか？ 人々は、自分の生活を犠牲にしてもヴェーダの戒めを忠実に守ろう、という覚悟をしなければなりません。ヴェーダを自分の命そのものと見なさなければなりません。こうした決意と信念を持つている人だけが、ヴェーダを普及させる適任者です。

人々の間にヴェーダを普及させる時には、恐れずにいなさい。あなたは真理を公言しようとしているのに、どうして恐れを抱くのですか？ 恐れなければならぬのは、嘘を教えている人だけです。あなたの生活は危険な

状態にあるのですか？もし人生が続くとしたらどうですか？ヴェエーダを守るために生活を犠牲にすることよりも気高いことは何もあります。それほど不屈の決意の精神を持って、ヴェエーダの知識を復興することに着手すべきです。あなたは自分が明言したことを実行しなければいけません。それから、その知識を人に伝えなさい。

ヴェエーダは万物にみなぎっている

人は誰もがヴェエーダを崇敬しなければいけません。ヴェエーダは生活の基盤そのものです。日々の生活での行いの一つひとつはヴェエーダを起源としています。ヴェエーダは万物にみなぎっており、そのことを皆が知っています。それがいいが、それは事実です。

供犠^{ヤグニヤ}では、ナーラーヤナ神自らがヴェエーダの権化として現れます。供犠^{ヤグニヤ}はナーラーヤナ神の現れです。供犠^{ヤグニヤ}は犠牲^{テイヤガ}を意味します。犠牲というものの本当の意味は、すべての悪い思考、エゴ、悪い性質、不浄な欲、間違っ

た行いを、手放すことです。そうして初めて、神のヴィジョンを体験する「神の御姿を見る」ことができるのです。

マインドが空っぽであれば、何でも入れることができます。けれども、あらゆる種類のがらくたが詰まった頭を、あなたはどうやって空っぽにするのですか？頭を空^{から}にしないで、どうやってあなたは清らかな思考のための場所を見つけることができますか？あなたのハートはあらゆる類の感情でいっぱいです。それでどうやってあなたのハートをヴェエーダの甘露で満たすことができますか？誰もが、ヴェエーダの復興のために働くこと、そして、ヴェエーダ^のに則^のった生活を送ることを、自分の第一の義務と見なさなければなりません。

一九八七年九月二十八日

プールナチャンドラ講堂にて

Sathya Sai Speaks Vol.20 C23